

JP-U-58-170882

A casing for containing telephone-maintenance components therein is disclosed. As shown in FIG. 2, the casing is composed of a case 2 and a case cover 3, both made of synthetic resin. The case cover 3 includes a peripheral fringe 3b that is bent toward the case 2. The casing is attached to an outside wall of a house. The peripheral fringe 3b prevents water from entering into the casing.

59280 19
①

公開実用 昭和 58—170882

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭58—170882

⑬ Int. Cl.³
H 05 K 5/06
B 65 D 43/16

識別記号

庁内整理番号
6679—5D
6247—3E

⑭ 公開 昭和58年(1983)11月15日

審査請求 有

(全 頁)

⑮ 集合保安器収容箱

⑯ 実 願 昭57—67757

⑰ 出 願 昭57(1982)5月10日

⑱ 考 案 者 吉田哲夫
東京都千代田区内幸町1丁目1
番6号日本電信電話公社内

⑲ 考 案 者 大沼喜代吉
東京都港区芝1丁目8番19号

⑲ 考 案 者 沢井太吉

東京都港区芝1丁目8番19号

⑲ 考 案 者 高橋靖夫

東京都港区芝1丁目8番19号

⑲ 出 願 人 日本電信電話公社

⑲ 出 願 人 株式会社白山製作所

東京都港区芝1丁目8番19号

⑲ 代 理 人 弁理士 中畑孝



明 細 書

1. 考案の名称

集合保安器収容箱

2. 実用新案登録請求の範囲

合成樹脂製収容箱本体 2 と、該収容箱本体 2 に
紫番 5 にて開閉可に取付けられた合成樹脂製蓋体
3 と、上記収容箱本体の内底部に設けられた保安
器取付用の木質板 4 とから成る集合保安器収容箱
において、上記収容箱本体 2 の周囲側板 2 b の上
端に雨止め鍔 8 を側方へ向け張り出させ、該雨止
め鍔 8 を上記蓋体 3 の周囲側板 3 b の内面側へ嵌
め合い構造とすると共に、該雨止め鍔 8 の内周縁
に回り縁 10 を立上げ、同様に上記蓋体 3 の周囲側
板 3 b の内側に回り縁 11 を立上げ、該蓋体側回
り縁 11 を上記収容箱本体側回り縁 10 の内面側
へ嵌め合い構造とし、更に上記収容箱本体 2 の側
板 2 b 上端には紫座 12 を形成し、該紫座 12 の
内側縁を囲むように回り縁部分 10 a を連設させ
ると共に、該紫座 12 に隣接する上記雨止め鍔の
縁に回り縁部分 10 a へ連なる雨止め堰 13 を立

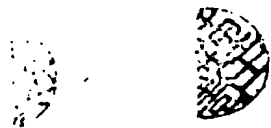
公開実用 昭和 58— 170882



上げ、該雨止め堰 13 と上記回り縁部分 10 a と
 蝶座 12 にて蝶番据え付け部 14 を画成し、同
 様に蓋体 3 の側板 3 b と回り縁 11 間の嵌め合い
 溝 15 底壁にて上記蝶座 12 と対となる蝶座 16
 を形成し、該蝶座 16 の内側縁を囲むように回り
 縁部分 11 a を連設させ、該回り縁部分 11 a と
 上記側板 3 b と蝶座 16 にて蝶番据え付け部 18
 を画成し、他方 7 形の小連結板 5 a と 7 形の大連
 結板 5 b とから成る蝶番 5 を形成し、該 7 形の
 小連結板自由端の折曲翼板部 5 a' を上記収容箱本体側
 の蝶番据え付け部 14 にその内面側を以つて嵌着
 して蝶座 12 に取付けし、同様に大連結板 5 b 自
 由端の折曲翼板部 5 b' を上記蓋体 3 側の蝶番据え
 付け部 18 にその外面側を以つて嵌着して蝶座 16
 に取付けし、以つて収容箱本体 2 と蓋体 3 とを開閉
 可に連結したことを特徴とする電話加入者用集合保安
 器収容箱。

3. 考案の詳細な説明

本考案は電話加入者宅の建物外壁に備え付けられる
 集合保安器収容箱に関する。従来、実開昭 52-127848 で知ら



れている集合保安器収容箱は収容箱全体を合成樹脂で構成して耐^{耐水性}蝕性を具備させると共に、内部に木質製取付板を使用して保安器個々を釘打ちにて取付けできるようにしたものである。



本考案は基本構造として上記構成を具備させながら、その母体たる収容箱本体の開閉機構及びその水密機構等の点について改善を加えたものであり、図面はその一実施例を示す。図に示すように、本保安器収容箱 1 は合成樹脂製収容箱本体 2 と、該収容箱本体 2 に螺番 5 にて開閉可に取付けられた合成樹脂製蓋体 3 と、収容箱本体 2 の内底部に設けられた保安器取付用の木質板 4 とから成る。木質板 4 はその下面を収容箱本体 2 の底板 2 a から突成された複数の取付孔付の突座 6 へ床高に支え付けすると共に、その周囲側面を本体 2 の周囲側板 2 b の内面から突設された複数の間隔形成リブ 7 にて支え、底板 2 a と側板 2 b の双方から離間する。

収容箱本体 2 の周囲側板 2 b の上端に雨止め鉤 8 を側方へ向け張り出させ、該雨止め鉤 8 を蓋体

公開実用 昭和 58— 170882



3 の周囲側板 3 b の内面側へ嵌め合い構造とし、該嵌め合いにて外部に露出状態となる雨止め鍔 8 の背面、即ち、側板 2 b の外面と連なる雨止め鍔 8 の面にその長手に亘つて雨返し溝 9 を設けると共に、該蓋体側板 3 b の外面側端縁に雨止めリブ 17 を外側方へ向け突成した。

実施例は雨返し溝 9 と雨止めリブ 17 の併用を、収容箱 1 の建物外壁への取付け時に上下になる側板 2 b , 3 b においてのみ行なつた場合を示す。

更に、収容箱本体 2 の雨止め鍔 8 の内周縁に回り縁 10 を立上げ、同様に蓋体 2 の周囲側板 2 b の内側に回り縁 11 を立上げ、上記本体側回り縁 10 の内面側へ嵌め合い構造とする。蓋体 3 を取付ける収容箱本体 2 の側板 2 b 上端には襟座 12 を形成し、該襟座 12 の外側縁を側板 2 b の外面より若干突出させ、該襟座 12 の内側縁を囲むように回り縁部分 10 a を連設させると共に、襟座に隣接する雨止め鍔 8 の縁に上記回り縁部分 10 a に連なる雨止め堰 13 を立上げ、該堰 13 と上記回り縁部分 10 a と襟座 12 にて襟番据え付け部



1 4 を画成する。

他方蓋体 3 の側板 3 b と回り縁 1 1 間に形成された嵌め合い溝 1 5 の底壁にて、上記蝶座 1 2 と対となる蝶座 1 6 を形成し、回り縁部分 1 1 a を該蝶座 1 6 の内側縁を囲むように連設させ、該回り縁部分 1 1 a と側板 3 b と蝶座 1 6 にて蝶番据え付け部 1 8 を画成する。

才 6 図は蝶番据え付け部 1 4 と 1 8 に取り付けられる蝶番を示している。蝶番 5 は収容箱本体 2 と連結される 1 形の小連結板 5 a と蓋体 3 と連結される 1 形の大連結板 5 b とから成る。小連結板 5 a と大連結板 5 b とは夫々同方向に 1 形となされ、枢軸 5 c にて連結されている。

才 4 図、才 7 図は蝶番 5 の取付状態を示している。図示のように小連結板 5 a 自由端の折曲葉板部 5 a' を上記収容箱本体側の蝶番据え付け部 1 4 にその内面側を以つて嵌着し、その蝶座 1 2 に充つてねじ止する。

同様に大連結板 5 b 自由端の折曲葉板部 5 b' をその外面側を以つて上記蓋体 3 側の蝶番据え付け部

公開実用 昭和 58 — 170882

18に嵌着し、その繫座16に充がいねじ止する。大連結板5bのヒンジ板部5b'は蓋体2の側板3bに添接されつつ、側板端部を乗り越えて枢軸部5cに連結され、又小連結板5aのヒンジ板部5a'は繫座12の外側面に添接されつつ、これを抱き込むようにして枢軸部5cに連結される。

斯くして收容箱本体2と蓋体3とが開閉可に連結される。他方繫番取付部の側板2bと対向する收容箱本体2の側板2bにはその上端雨止め鉤8へ取付孔を備えた締付座金19を抱着させ、これと対応する蓋体3の自由端の嵌め合せ溝15部に位置させて締付ねじ20を取付け、該締付ねじ20を上記締付座金19にねじ込み締付けすることによつて閉蓋状態をロックする。この締付座金19の場合も、繫番の場合と同様に回り縁部分11bと堰22と鉤8にて座金据え付部23を画成する。締付ねじ20の場合はその取付位置が回り縁11と側板3b間に形成された嵌め合せ溝15部分であれば良い。21は屋外線と屋内線を導出入するための導線孔であり、該導線孔21は收容箱1を



外壁へ据付けた時に上下となる側板 2 b に切欠開穿する。

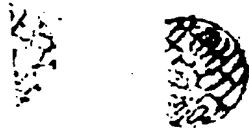
即ち、収容箱 1 は蝶番と締付座金を配した側板 2 b が左右となるように取付ける。木質板 4 を支え付けする突座 6 の外側、即ち間隔形成リブ 7 にて形成された木質板 4 周囲の間隔に位置するように隔膜を有する取付孔 2 2 を備え、該取付孔 2 2 へ隔膜を突き破りながら釘類を打設することによつて壁面取付けを図る。取付孔 2 2 と突座 6 は共に、底板 2 a の背面で据え付け突座 2 4 を形成している。

既述のように電話用保安器収容箱は屋外の壁面に設置され、風雨に晒される機会が多い。

本考案はこれらの実情に鑑み、収容箱内への雨水の浸入予防について改善を図ると共に、上記蝶番部を中心とした開閉機構について、その水密性を満足させつつ、組立て、使用上の構造改善を図つたものである。

収容箱本体 2 の側板 2 b に設けた雨止め銚 8 は蓋体 3 の側板 3 b を超え外壁に当つて側板 3 b の

公開実用 昭和 58— 170882



内側へ跳ね返つた雨水の大部分を遮断する。仮に強い風雨条件下で雨水が該雨止め鋳 8 の縁を超えて収容箱本体 2 の内側へ浸入した場合には蓋体 3 の回り縁 1 1 と収容箱本体 2 の回り縁 1 0 との嵌め合い壁が保安器収容室周囲を囲んでいるので、これに完全に阻止され、雨水は回り縁 1 1 と側板 3 b 間で形成する嵌め合い溝 1 5 内を濡らすにとどまる。

同様の水密構造は葉番機構部においても完全に保障される。既述のように葉番 5 は大小二枚の 1 形連結板 5 a , 5 b の対から成り、大連結板 5 b はそのヒンジ板部 5 b' が側板 3 b を乗り越えて枢軸部 5 c へ到らせることができ、葉番取付部で蓋体側板 3 b が欠除されない。折曲葉板部 5 b' は回り縁 1 1 と側板 3 b 間の溝 1 5 内にあつて側板 3 b と回り縁 1 1 による雨水阻止作用を阻害することなく、葉番取付けを図ることができる。

又折曲葉板部 5 a' を取付けた収容箱本体 2 側の葉座 1 2 においても回り縁部分 1 0 a と該回り縁^止部分から雨め鋳 8 の端縁へ連設した堰 1 3 とによ





り雨水は最悪の場合でもこれらに囲まれた蝶番据え付け部 14 内に入るにとどまり、箱内への浸入及び銚 8 を伝わって据え付け部 14 へ浸入せんとする雨水を確実に防止する。従つてこれまで最も水密加工が難しいとされていた蝶番部における防水瑕疵の問題がこれによつて効果的に解決できる。

又既述のように上記蝶番構造及びこれを取付ける上記蝶番据え付け部の構造は蝶番 5 の取付、蓋体 3 の組付けの作業を著しく容易にする。

即ち、既述のように蓋体 3 を開蓋した状態で蝶番の折曲葉板部 5 a' と 5 b' が共に、据え付け部 14, 16 から露出され、両者はその上部空間が共に開放された状態におかれ、同状態でビス止め等を図ることができる。即ち、蝶番の取付けに際し、ドライバーの差し入れは開蓋状態で全て同方向から他の構造部に邪魔されない状態で行なうことができ、狭い間隙へ工具を差し込む不便さも解消される。更に蝶番の枢軸部は常に収容箱本体 2 の背面側へ近づくように位置させることができ、これによつて蓋体 3 を該枢軸 5 c を支点として開

公開実用 昭和 58 — 170882



いた時、該枢軸 5 の位置によつて必然的に蓋体背面を外壁の面に当接させるように開かせることが可能となり、蝶番取付部へ開蓋時無用な負担をかけることがなくなる。従つて、保安器の補修、増設に伴う蓋体開閉時等において、誤まつて開き過ぎて蝶番取付部を破損することなくなり、大きな開角で開蓋できるから上記作業も非常にやり易くなつた。

4. 図面の簡単な説明

才 1 図は本考案の実施例を示す集合保安器収容箱の外観図、才 2 図は同 A-A 線断面図、才 3 図は同 B-B 線断面図、才 4 図は開蓋状態を示す同外観図、才 5 図 A 図は蝶番取付部の拡大斜面図、同 B 図はロック部の拡大斜面図、才 6 図は蝶番外観図、才 7 図は蝶番部の開閉状態を示す拡大断面図、才 8 図は収容箱本体の平面図、才 9 図は同側面図、才 10 図は同背面図、才 11 図は蓋体平面図、才 12 図は同側面図、才 13 図は同背面図である。

1 . . . 集合保安器収容箱、2 . . . 同収容箱



本体、3 . . . 同蓋体、4 . . . 木質板、5 . .
・ 蝶番、5 a . . . 同 1 形小連結板、5 b . . .
同 1 形大連結板、5 a' , 5 b' . . . 折曲葉板部、
5 a' , 5 b' . . . ヒンジ板部、8 . . . 雨止め鍔、
1 0 , 1 1 . . . 回り縁、1 0 a , 1 1 a . . .
回り縁部分、1 2 , 1 6 . . . 蝶座、1 3 . . .
堰、1 4 , 1 8 . . . 蝶番据え付け部、1 5 . .
・ 嵌め合い溝。

実用新案登録出願人
(4 2 2) 日本電信電話公社
株式会社 白山製作所

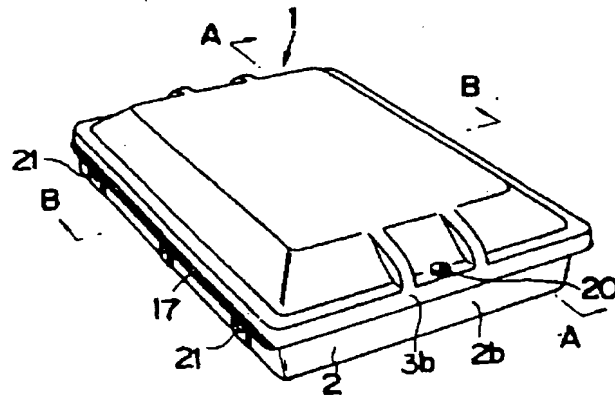
代 理 人

弁理士 中 畑 孝

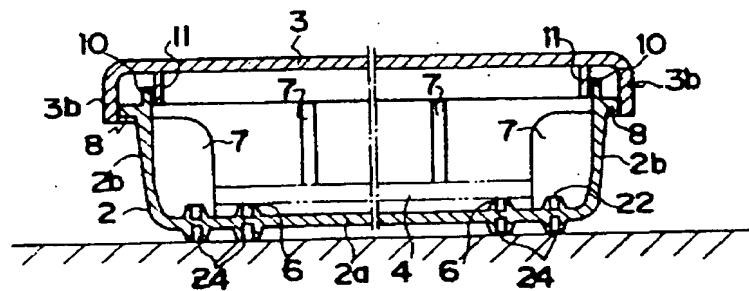


公開実用 昭和 58—170882

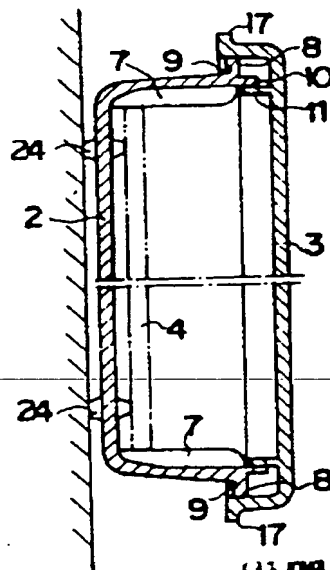
第 1 図



第 2 図



第 3 図

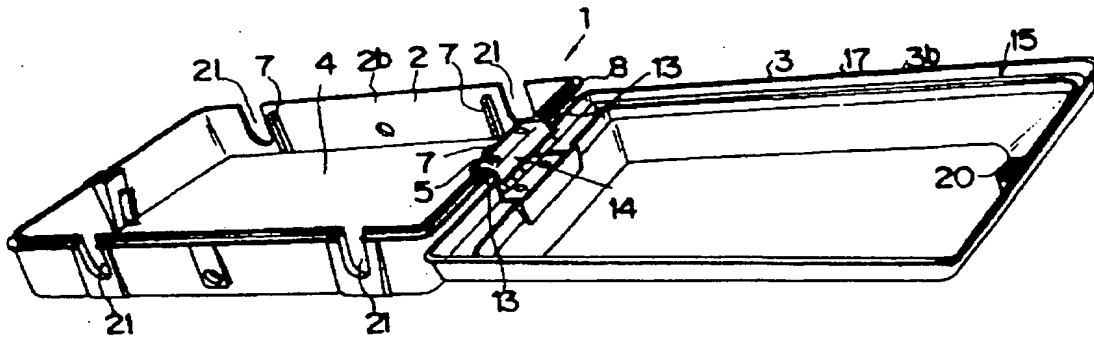


実開58-17088-2

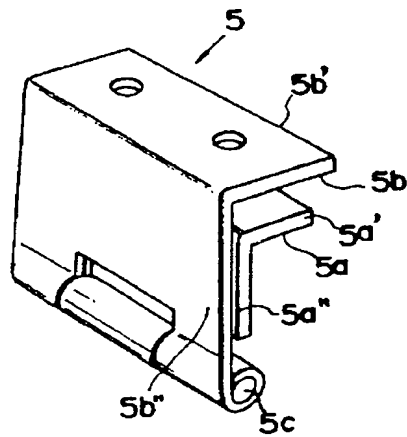
中 国 人 民 大 学 出 版 社

(14)

第 4 図



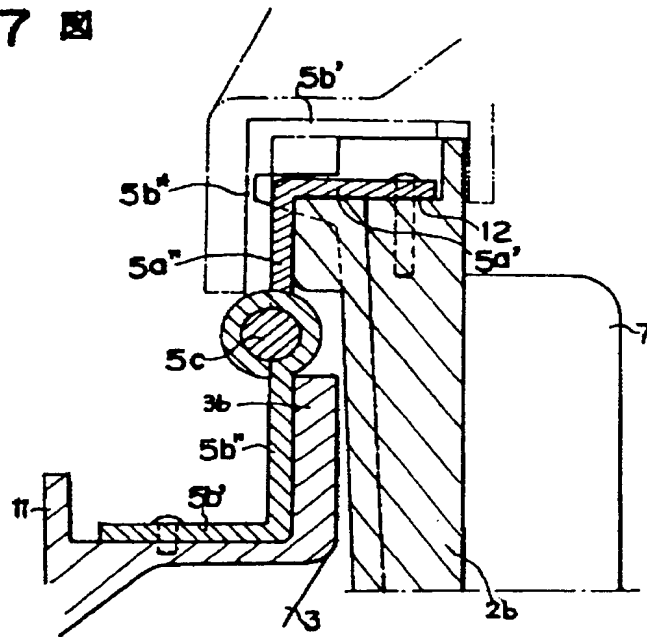
第 6 図



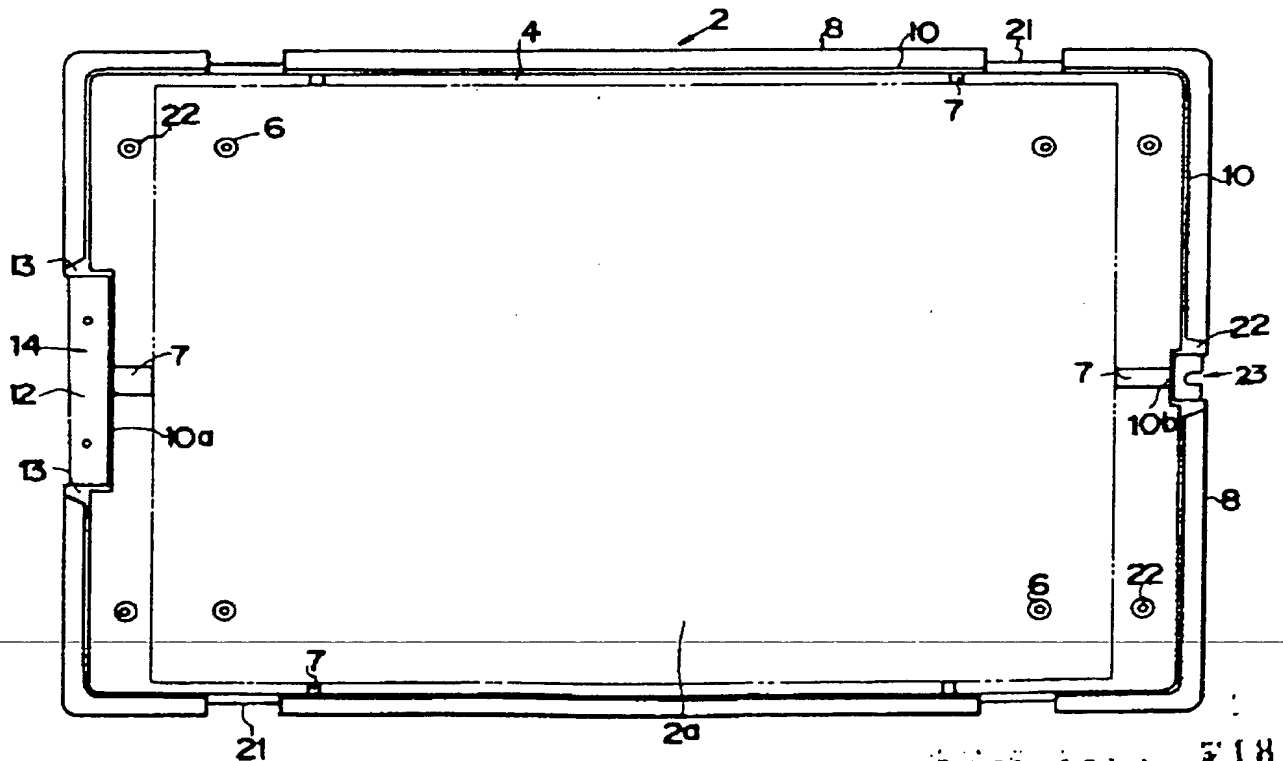
716

代理人弁理士 中 畑

第 7 図



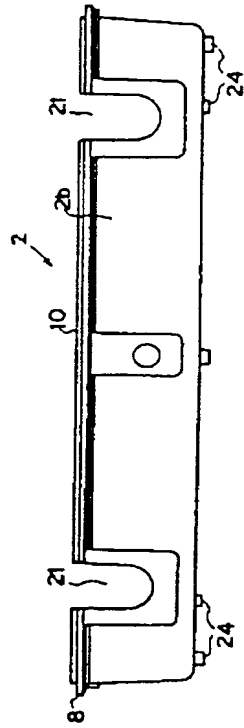
第 8 図



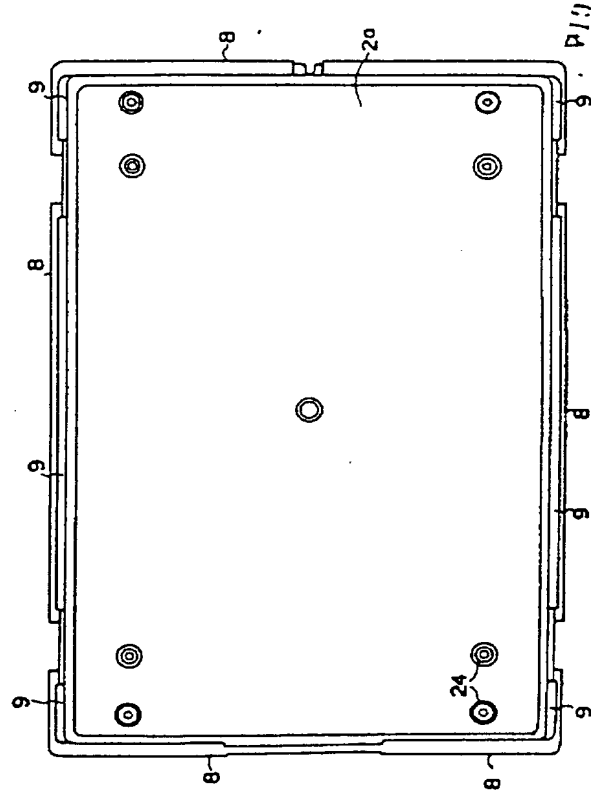
実開58-1702-218

代理人 佐藤 山 田

第 9 図



第 10 図

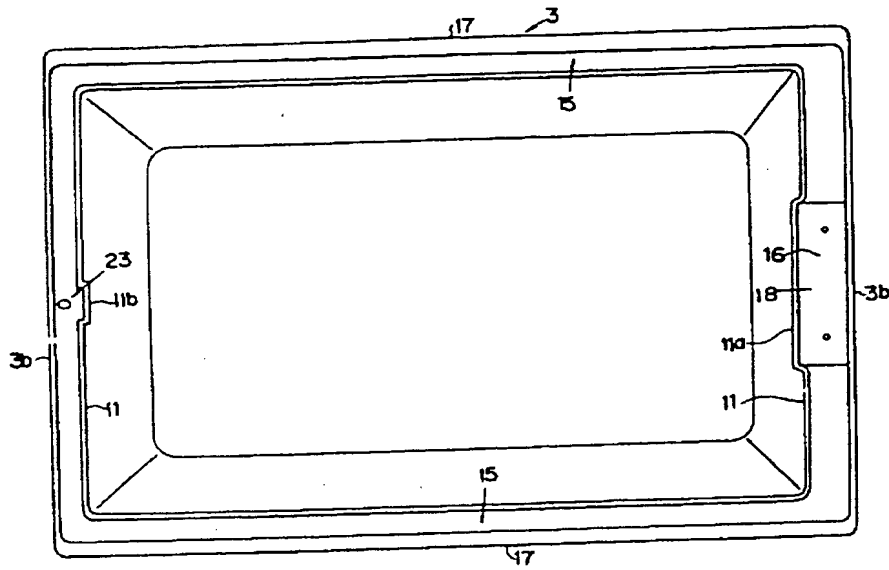


昭和 58-170882

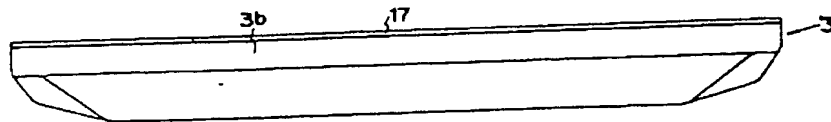
代理人 井理士 中 畑 孝

公開実用 昭和 58-170882

第 11 図



第 12 図

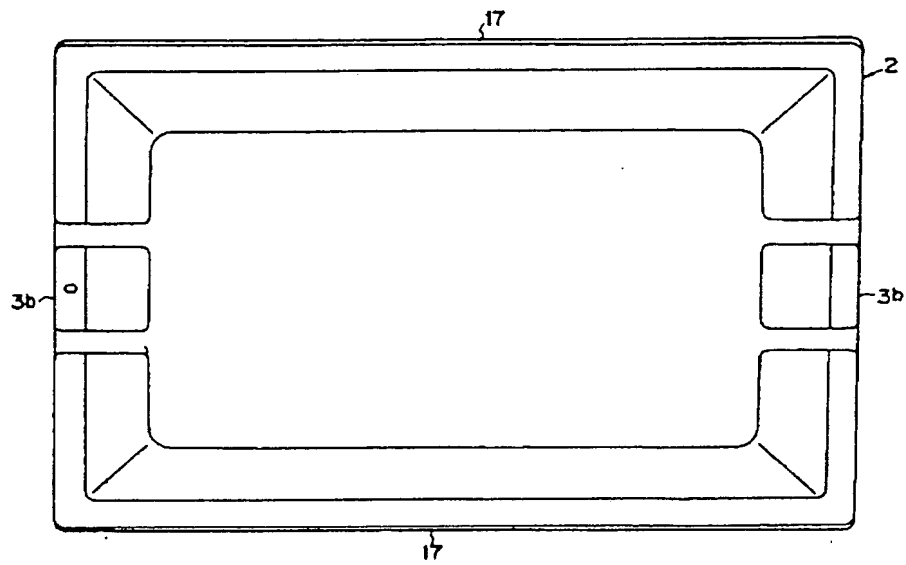


720
実用 昭和 58-170882

代理人 佐理士 中 畑 孝

(19)

第 13 圖



721

代理人 井理上 中 畑 孝